

平成27年

目黒区教育委員会

第13回定例会会議録

(平成27年4月7日開催)

第13回目黒区教育委員会定例会会議録

開催年月日 平成27年4月7日

開催場所 教育委員会室

出席委員	教育委員会委員長	木村 肇
	教育委員会委員長職務代理者	小村 恵子
	教育委員会委員	笹尾 敦夫
	教育委員会委員	中山 ひとみ
	教育委員会教育長	尾崎 富雄

出席職員	教育次長	関根 義孝
	教育政策課長（学校統合推進課長兼務）	
		山野井 司
	学校運営課長	佐藤 欣哉
	学校施設計画課長	照井 美奈子
	教育指導課長	佐伯 英徳
	教職員・教育活動課長	濱下 正樹
	めぐろ学校サポートセンター長	増田 武
	統括指導主事	細田 真司
	統括指導主事	和田 孝
	生涯学習課長	金元 伸太郎
	八雲中央図書館長	大迫 忠義

書記		鈴木 敏由起
		山東 隆博

(午前9時30分開会)

○委員長        それでは、第13回目黒区教育委員会定例会を開会いたします。  
本日の欠席委員、欠席職員はございません。署名委員は笹尾委員  
です。

                  それでは、日程第1を議題とします。

(日程第1        教育委員会議事録の取扱いについて(報告事項))

○説明員        (資料により説明)

○委員長        この件に関しましてご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○委員         ほかの区の実施状況等を見ましても、資料については議事録に  
は載せないというのが一般的になっていますが、内容といえます  
か、報告されたり議決される案件の内容によっては、資料がない  
とわからない。結局、私たちが発言するものはほとんど資料を見  
ながらの発言になりますので、そうすると、その資料がないまま  
に発言した内容をそのまま全文筆記という形で残しますと、何を  
言っているのか、結局わからない。初めて見る人はですね。そう  
いった事例が結構あるんじゃないかなと思いました。

                  私の場合は以前、民間におりましたころは、国交省とか国の機  
関の議事録というのは何回か見たことがあるのですけれども、そ  
ういったものでは、大概是委員会に出す資料というの、あらか  
じめPDF等々で公開されているというのが大体、一般的じゃな  
いかと思いますが、その辺の資料の取扱い、これを今までどおり  
でやられるとすると、その資料の内容についての概要の説明等、  
こういうものも議事録の中に載せていくのかどうか、その辺のお  
考えをお聞きしたいと思います。

○説明員        資料の公開についてのお尋ねでございますが、現段階では資料  
についてはホームページでは公開しないということで考えてござ  
います。これは資料の中身、教育委員会にかけた段階で、まだ内  
部では確定してございますけれども、公表できるもの、できない  
もの、様々ございますので、基本的には資料をご覧になりたいと  
いった場合には、文書の開示請求をしていただいて、ご覧をいた  
だくと現段階は考えてございます。

                  以上でございます。

○委員長        ほかにございませんでしょうか。

特にないようですので、この報告を受けました。  
続きまして、日程第2を議題とします。

(日程第2 平成27年度教育施策説明会の開催について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 ありがとうございます。

27年度の教育施策説明会の開催についての説明をいただきましたけれども、この件につきまして、ご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○委員 意見というよりも要望ですけれども、この教育施策説明会といいますのは、小中学校及び幼稚園・こども園の保護者にとっては非常に貴重な機会なので、全ての保護者にきちんと伝わるように周知を徹底していただきたいということで、これは要望ですのでお答えは結構です。

○委員長 よろしいでしょうか。それでは、そういう要望のもとお願いします。

ほかにご質問、ご意見はないですか。

ないようですので、この報告を受けました。

続きまして、日程第3を議題とします。

(日程第3 平成27年度目黒区等研究指定校について(報告事項))

○説明員 (資料により説明)

○委員長 平成27年度の研究主題と研究指定校についてのご説明をいただきました。これについて何かご質問、ご意見ございませんでしょうか。

○委員 学校教育の充実を図っていく上で、それぞれの学校が研究を進めていくということは非常に重要なことだと思いますが、資料の1の(1)の目黒区教育委員会の教育開発指定校についてお伺いしますけれども、この2校とも3年間の3年目ですよね。ですから、1年、2年やってきて、今回、最終的にこの3年目で一つの形をつくるということだとは思いますが。例えば2年目でも一定の総括はしているかということ。また、毎年4月に行っている学校長のプレゼンテーションとこの教育開発指定校の研究の中身と、例えば大岡山でいえば生活科、社会科、それから上目黒でいえば

算数科ですけれども、そういったものとリンクがされているのかどうかということについて2点お伺いしておきます。あとは全部1年目なので、これから取り組むということですので、質疑はいたしませんけれども、1の(1)の3年目の2校についてお伺いします。

○説明員 3年間の3年目ということで、各校、2年間の校内における研究の成果と課題についてはまとめているところがございます。うち、大岡山小学校につきましては、ご承知のとおり、12月ごろ中間報告ということで発表会を行ったところがございます。また、今年度、4月に行われる学校経営のプレゼンテーションにつきましては、今、計画を立てているところだと認識しておりますが、校内研究は、先ほど委員がおっしゃったとおり、非常に校内で大事な学校経営の一つになっておりますので、学校経営のプレゼンテーションと内容がリンクしているかどうかということにつきましては、今後確認をしていきたいと思っております。

○委員 目黒区教育委員会の教育開発指定校については、これは区費を投じているわけですね。非常に予算も少額とはいえ、それぞれ30万、45万というようについていきますので、単に研究のための研究に終わらせないで、きちっと学校経営に反映できる、そういう基本的な考え方を持って取り組むべきだと思いますけれども、その点についての所見をお伺いします。

○説明員 ただいまご指摘いただいたとおりでございます。やはり研究のための研究ではなくて、研究をやることによってどう子どもの変容があるのかといったことについて、成果と課題を実は年3回、校長等は自己申告の際のヒアリングを行っております。年度当初の目的、目標を定めて、中間報告でどのような成果が上がっているのかということも随時ヒアリングを通して直接確認をしております。あるいはまた、教育指導課訪問の際にも指導主事から実際そういった研究の成果についてプレゼンを受けるといったところで、その研究がいかにかその学校の教育活動に生かされているかということも常に把握しながら、また、支援という形で関わっているところがございます。有効にこの予算を使うということで、これについては校長への意識づけも常日ごろから行っているところがございます。

以上でございます。

○委員 目黒区教育委員会の教育開発指定校の決め方というか、この中

身の決め方ですけれども、恐らく教育委員会でこういうことをやったらどうだろうかという、いろいろと検討されていると思うのですけれども、これを見ますと、(1)はみんな3年間の3年目で、(2)、(3)は2年間の1年目なので、毎年こういうプログラムをどのくらい組んでいくというような、そういう長期にわたる何かプログラムのようなものはありますか。

○説明員        こちらの目黒区の教育開発指定校につきましては、これまでは3年間をサイクルとして指定を、学校で書面で研究内容を出していただいて、審査し、指定してきたところでございます。今年度から研究の指定期間を2年間というような形にして、学校に通知を出したところでございます。

○委員長        ほかにございますでしょうか。  
特にないようですので、この報告を受けました。  
続きまして、日程第4を議題とします。

(日程第4        平成27年度自然宿泊体験教室及び学校独自宿泊事業の実施  
について(報告事項))

○説明員        (資料により説明)

○委員長        ありがとうございます。

平成27年度の自然宿泊体験教室及び関連の宿泊事業についての説明をいただきました。この件に関してのご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員        今、説明がありましたとおり、自然宿泊体験教室等については、新学習指導要領にも位置づけられており、子どもたちの社会性あるいは人間性をはぐくむなど、大きな効用があるわけですけれども、若干細かいところでお伺いしたいと思います。

まず、資料の1の小学校4年生の宿泊体験教室なんですけれども、(2)の日数のところで、下目黒小学校が1泊2日になっている理由をもう一度お聞きしたいのと、それから、2の(2)の緑ヶ丘と上目黒の説明がありましたけれども、ここが3泊4日になっている理由をもう一度お伺いしたいのと、それから、中学校登山の関係なんですけれども、これは新たに取り組むということで、夏山といえども、今、説明がありましたけれども、自然を相手にするものであり、どういった山を今、想定されているのか、あるいは、ロングトレッキングのお話がありましたけれども、判

断といたしますか、今日は登るか登らないか、あるいはロングトレッキングに変更するかしらないかという判断は、誰が責任をもって行うのか、まずその点についてお伺いしておきたいと思います。それと、十一中だけスキー教室を行っていますが、ほかからそういう要望がないのかどうか。大きく4点ほど聞きたいと思います。

○説明員

今のご質疑に順次お答えいたしますが、まず1点目の下目黒小学校4年生が興津で1泊になるという理由でございます。実は、4年生では下目黒小学校が興津で1泊になります。それから、5年生では2泊の八ヶ岳、ただし6年生になりますと、2泊3日とあわせてまた別の日程で実施をしております、そのうち春につきましては、八ヶ岳の田植え等の体験をすることで、合計4年で1泊、5年で2泊、そして6年で5泊ということで、合わせて合計8泊という規定の中で割り振りをしている関係で、4年生では1泊2日の興津自然学園での実施となっております。

続いて、緑ヶ丘小学校と上目黒小学校が泊数が変わった経緯でございますが、先ほど申し上げましたように、これまでの角田市での田植えとの代替です。現在、角田市での実施を見送っている状況で、その代替として八ヶ岳での田植え・稲刈り体験を実施しておりましたが、今年度につきまして、その実施業者が今後は実施はできないということで、そういったことで代替場所を探しておったんですけれども、なかなかほかの適当な業者が見つからないということから、学校と相談をして、今まで春に1泊、それから秋に2泊と分けて実施していたところを、合わせて3泊4日に今年度から実施をするような形になったところでございます。角田市との交流につきましては現在見送っておるところでございますが、今後の推移によって、もし交流等が再開することになった場合については、またそういった部分の泊数の割り振り等については検討する必要があるかなというように考えております。

続いて、3点目の中学校の登山でございますが、候補地としては、既に昨年度、实地踏査をしております、また今年度も新たに实地踏査をする予定でございますが、8ページにAの登山ということで、候補地として、編笠山、丸山・中山等々を候補として挙げております。やはり中学校1年生という部分で、その学年を構成している教員、それから子どもたちの発達段階、2年生の段階で夏にかなりの山を登ってきた経験はありますが、やはり今度は中学校1年生という体力を考えると、その点については慎重な

検討が必要だと思っております。ただ、登山をやる方向で現在、中学校で準備をしておりますが、その代替としてロングトレッキングを用意をしたという経緯でございます。

当日、山に登るか登らないか、あるいはロングトレッキングの実施については、前日までの天候の状況等を現地の方々の情報を集めて、あるいは当日の朝の天候の状況等を基に、最終的に実施するか否かについての判断は、学校長が行うことになろうかと考えております。

続いて、4点目の学校独自の宿泊事業でございますが、今のところ十一中は今年度も引き続き実施をしたいということで予定をしておりますが、ほかの学校からは現時点での要望等は上がっておりません。

○委員

私からも1点あるのですが、先ほどもお話にあった宮城県角田市といまだに交流が途絶えている。その一つが放射線の汚染ということなんですが、一体どういう状況がクリアされたら再開されるのかなという目安があれば、教えていただきたいです。というのは、慎重に慎重を期しているというのは、目黒区のいろいろなものの放射線測定についても伝わってくるわけですが、このままいけば、また批判が出るからということで、次の年、また次の年と、なし崩し的に先送りされるんじゃないかと実は思っています。私のもとにも角田市からの再開要望が伝わってくる現状がございます。どういうものがクリアされたら、再開するのかという目安があれば、教えていただけたらと思います。

○説明員

角田市との交流の再開につきましては、昨年の9月議会でも教育長から答弁をしておりますが、角田市は放射性物質汚染対象の特別措置法に基づきます汚染状況重点調査地域に現在も指定されておまして、市による本格的な除染を行っております。角田市との交流を再開することについては、今後、空間放射線量の測定の結果、市全域の平均的な空間線量がやはり毎時0.23マイクロシーベルト未満となり、汚染状況重点調査地域の指定が解除された時点で、その時点で児童の安全を第一に、総合的な検討が可能ではないかと教育長から答弁されているとおり、そこの状況の推移を今現在みておるところであります。

ただ、この交流の糸が切れないように、区として田んぼについて、今現在も引き続き借り上げをしております、角田市の子どもたちがその田んぼでの田植えや、また稲刈りをしています。私



的なPTAの会であるとか個別に、田植えとそれから稲刈りには、参加をされていると聞いております。

○委員           ありがとうございます。私個人の、あくまでも個人の意見ですが、危険性があるからといってむやみに遠ざかるのではなくて、その危険性がどの程度のものかというのを認識しながら行動していく。安全第一ですけれども、そういう認識も植えつけるいいチャンスになるのではないかと個人的に思っています。ただ、やはり批判のある中、実行は難しいと思うのですが、少しでも前向きに考えていただけたらなと個人的には思っております。とにかくこういう宿泊事業を安全に遂行するのは、裏方というか準備、それから遂行、全てが本当に骨の折れることだと思うので、大変だとは思っております。

○委員長           ほかにご質問ないでしょうか。  
ないようですので、この報告を受けました。  
次に日程第5を議題とします。

(日程第5       平成27年度学校評議員の委嘱について(報告事項))

○説明員           (資料により説明)

○委員長           ありがとうございました。

この報告事項について何か、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

○委員           この評議員はもちろん色々なバランスを考えられて構成されていると思うのですが、全員新任だったり全員再任だったりする学校もあるのですけれども、継続して何か話し合われている審議などがあった場合に不都合なことはないのか、教えてください。

○説明員           ただいまのご質問でございますけれども、資料裏面の第八中学校ですとか、東山中学校など、確かに再任や新任の方ばかりとなっています。バランスということでございますけれども、こちらの推薦に当たりましては、学校長からその地域の方をお願いをしていく中で、任期というものがございまして、一応基本は1年でございます。再任、もう1年に限りできますが、やはり委員によっては1年で、個人のご事情もございまして、かわるということもございます。ただ、東山中学校のように全員新任になったという場合につきましても、学校から昨年状況につきまして、委員の方々には丁寧に説明をさせていただく。確かに、研修という

ところまでは至ってはいないんですけれども、その点につきましては、学校長から丁寧に説明をしているというように認識をしているところでございます。

○委員           ありがとうございます。あと、もう一つよろしいですか。  
保護者、PTA関係者が入っていない学校がありますが、これは要望なんですけど、できればPTA関係者の方も入れていただきたいと思います。

○説明員         やはり先ほどご説明申し上げましたとおり、幅広いご意見をいただくというのがこちらの趣旨でございますので、今の要望については、推薦をお願いする際に、学校長をお願いをしまいたいと考えてございます。

○委員           あとは、私から一つなのですが、例えば衛生委員会のような校医を交えた会は年に1回学校であるわけですね。年に1回しかないとなかなか要望が反映されているか、どうなっているかというのが分からない状況です。評議員の方を交えた運営委員会は、どのくらいの頻度であるのでしょうか。

○説明員         こちらの学校評議員でございますけれども、学校で行っていません学校評価委員会、こちらの委員も兼ねているということがございまして、大体こちらは学校評価委員会、年に3回から4回、学校で行っている状況でございますので、そちらで学校長に対して意見を述べたり、学校の情報を得られているという状況ではございます。こちらのほかに、学校の各行事ですとか公開授業ですとか、評議員も出席をいただいて、こういった評価委員会の機会の中で意見等を学校長に述べているという認識をしております。

○委員           学校評議員会については、学校運営をしていく上でいろいろご意見を聴くということで、非常に有意義な制度だと思いますけれども、具体的に、委員からもお話があったんですけれども、学校評価委員会を開くことも可能なわけですね、規定上はね。そういったものがなぜ開かれていないか、もう一度お伺いしたいのと、それから、評議員の推薦の手続というのが、自薦なのか他薦なのか、最終的に誰が判断して教育委員会に名前を通知しているのか、手続的な点をお伺いしたいと思います。それから、具体的に平成26年度に各学校長に意見を申し上げるといふ成果のほかに、こういった具体的な効用といいますか、効果があったのかという点について、確認をしておきたいと思います。

○説明員         まず、評議員のその推薦の手続でございますけれども、こちら

は規則で定めてございまして、その学校の職員以外の者で教育に関する理解とか見識を有する方を学校長が推薦をし、教育委員会が委嘱するという規定になってございます。3月に入りまして、教育委員会から学校長に推薦をお願いをしている状況でございます。学校で、そういった学校経営に有効な意見をいただけるような方、さまざまな分野の方からの意見を頂戴するために、大体、各校5名ずつ推薦をいただき、教育委員会で確認をして、委嘱をしているところでございます。

○説明員

申しわけございません。1点目漏れました。

学校評議員会を開かないかというご質問でございますけれども、先ほど申し上げたとおり、学校評価委員会に学校評議員が委員として活動しているということもございまして、例えば鷹番小学校のように、学校評議員会を毎月実施しているところもございます。これは学校運営協議会を以前実施していたという経緯もございまして、そういった意見を学校の運営に広く取り入れるということで行っているところもあるのですが、他の学校につきましては、今のところ学校評議員会はなかなか実施ができていない状況があるのが現状でございます。

それから、26年度の意見をどのように学校に反映させたかということでございますけれども、先ほどの質問でもお答えいたしましたように、学校公開、それから運動会、あと学芸発表会ですとか、そういった機会の中で、学校評議員の方には必ず学校から招待しております。全ての方ではないですが、その都度、来ていただいておりますので、その中で気になったことですか学校経営に有意義な意見、例えば子どもたちの安全・安心の面でいいますと、通学路に関しての地域の情報ですとか、そういった情報も学校にあげて、学校の安全・安心の対策に生かしているという状況と認識してございます。

以上でございます。

○委員

それぞれ学校評議員が色々な学校で色々な場面でご意見いただいたり、ご提言をいただいたり、そういうご活躍をしていますが、学校評議員会というのは学校の評価委員会とは全く別なもので、言ってみれば、全学校評議員が一堂に会して相互に情報交換をしたり、あるいは意見交換をするというものを開くという検討は今までされたことはあるんでしょうか。

○説明員

学校現場からの視点でただいまの質問をお答え申し上げますと、

やはりこの学校評議員の方々をどう校長が活用というか、といったところに尽きるかなと思います。以前の経験を申し上げますと、年度当初に本年度の学校経営方針をきちんと学校評議員の会を開きまして、説明をまずいたします。目黒区の場合は前期・後期、2期制でありますので、少なくともそれぞれの前期に1回、後期に1回、あるいは適宜評議員会を招集をしまして、会を持っておりました。定期的には持っておりませんでした。年度によっては回数を多かったり少なかったりしていました。

あくまで学校評議員は学校評議員会であって、学校評価もその中でしていただくという形になって、やはりメインは学校評議員があって、評価委員会とは全く別のものということについては、ご指摘のとおりであります。ただ、評議員会があるので、そういった部分で評議員の方にも学校評価にもかかわっていただいて、位置づけとしては、そこを学校評価委員会というような形に学校では位置づけているということであって、あくまで、校長が招集をして、学校経営についてご意見を適宜いただく貴重な会であるというような認識は、各学校長持つておると捉えております。

以上でございます。

○委員長

ほかにございませんでしょうか。

特にないようですので、この報告を受けました。

これで日程は一応終了なんですが、ほかに何かございませんでしょうか。

ないようですので、本日の定例会を閉会いたします。

(午前10時23分閉会)